

## 姉妹都市のきずなを深めました!

### 海老名・白石青少年スポーツ交流大会

8月4日から6日までの3日間、姉妹都市である海老名市との青少年スポーツ交流大会が開催され、サッカーと剣道の選手のほか、指導者など56名の皆さんが本市を訪れ、青少年スポーツによる姉妹都市交流を行いました。

到着した一行は、まず中央公民館で行われた歓迎会・対面式に出席。対面式では、出迎えた白石の子どもたちとお互いに自己紹介をして笑顔で握手を交わしていました。



▲一列に並んでけいこ始め!(剣道)

翌5日には、スポーツ交流大会が行われ、サッカーは第一小学校グラウンド、剣道は東中学校体育館で、それぞれ力が入った熱戦を繰り広げ、さわやかな汗を流しました。

大会終了後には、スパッシュランドしろいしでバーベキューやプール遊びを行い、交流を深めていました。

今回の大会を通じて、海老名市との友好の輪がさらに広がるとともに、夏休みの楽しい思い出となったことでしょう。



▲選手役員全員そろって(サッカー)

## 懐かしの車に大興奮!

### レトロフェスタ in SHIROISHI

9月1日~9日の期間、市内中心部で「レトロフェスタ in SHIROISHI」が開催されました。



▲懐かしの車が並んだすまいるひろば

この催しは、プレ仙台・宮城デスティネーションキャンペーンの一環で開催されたものです。期間中、壽丸屋敷では段ボール製の甲冑や昭和期の生活用品などが展示されたほか、9月2日にはすまいるひろばに昭和期の車やボンネットバスが登場。バスは実際に遊覧するなど、会場はたくさんの人でにぎわいました。

## 地域の伝統文化継承のために!

### 第19回小原地区弓道大会

8月26日、小原公民館弓道場で小原地区弓道大会が開催されました。小原地区では、市の指定文化財に指定されている「百矢納め」が今も継承されています。これは、100本の矢が的を射抜くと、その年は五穀豊穡と家内安全であるという神事。

今年の大会には、小原弓道愛好会の会員15名が出席し、残暑が厳しい中28m離れた直径36cmの的を射貫き、日ごろの練習の成果を競い合いました。



▲28m先の的を狙いを定める選手たち

## 地域の安全を守ります!

### 中学生ボランティアが地域を巡視

8月5日、福岡中学校の校内ボランティアサークル「PSCパトロール」のメンバーが、防犯協会の隊員や白石警察署員らと共に、防犯・防災・交通安全の観点から地域の安全点検を行いました。



▲地域内を点検する生徒たち

猛暑の中、活動を終えた生徒は「身近にも危険箇所があり、みんなに知らせていきたいです。」と語り、点検の結果は「安全マップ」にまとめられ、校内に掲示するほか、福岡・深谷両小学校に寄贈されます。

## AEDの使い方も学びました

### 鷹巣地区で救急応急処置講習会

鷹巣地区コミュニティセンターで7月28日、主に心肺蘇生法やAED(自動体外式除細動器)の習得を目的とした救急応急処置講習会が行われました。鷹巣地区コミュニティ推進協議会の主催で行われた講習会には、緑が丘地区や鷹巣地区の住民21名が参加。白石消防署の職員が指導する中、参加者の皆さんは真剣な表情で応急処置の方法を学んでいました。

講習終了後には、受講者全員に修了証が交付されています。



▲真剣な表情で受講する参加者の皆さん

## 「ほっと一息」で安全運転!

### 福岡蔵本で交通安全キャンペーン

福岡蔵本の県道南蔵王・白石線(作屋付近)で8月19日、白石地区交通安全協会福岡西支部の皆さんが中心となり、夏の交通事故防止キャンペーンを行いました。



▲お菓子セットを配布する女性部の皆さん

キャンペーンでは、甲冑姿に身を包んだ女性部員が、ドライバーに「ほっと一息」ついてもらおうと、お菓子セットなどを配布。夏の強い日差しの中、1時間ほどで配布を終えた女性部の皆さんからは、大量の汗と明るい笑顔があふれていました。

## 注意こそが安全の第一歩!

### 「ほっとくらぶ・薬師」交通安全講習会

増加する高齢者事故に歯止めを掛けようと、7月~8月にかけ、薬師の湯ひまわりセンターで8回にわたり、交通安全講習会が行われました。

講習会には、市の生きがいデイサービス事業「ほっとくらぶ・薬師」を利用している高齢者合計約300名が参加。白石警察署交通課の警察官の説明に聞き入っていました。最後に反射材が全員に配布され、靴のかかと部分に張り付けるなどして、身を守る第一歩を踏み出していました。



▲説明を受ける「ほっとくらぶ」の皆さん

「天高く馬肥ゆる秋」といいますが、秋になるとさわやかで気分が晴ればれとする、天候の良い日が続きます。またこの時期は、食欲が増すばかりでなく、身体を動かすのに適している「スポーツの秋」でもあります。いっぱい食べて、身体を大いに動かすことが健康や美ぼうを保つ秘けつなのかもしれませんね。

今年7月に市民体育大会が開催されます。種目も多彩で、子どもから鈍足だった私でも楽しく参加できる大会です。球技などの体育は好きでしたが、足が遅いので、走ることが大の苦手でした。幼稚園時代から徒競走では一番を取ったことがありません(泣)。そういえば子どものころ、おふくろから「お前はチョロ助なのになんで走るのは遅いのだろうね?」

## 風間市長の「虫のなまじやま」秋

と言われたことを思い出しました。「チョロ助」俊足とは限らず」ということを長年証明してきたわけですから：おふくろの嘆きも分かれます。運動会の花形はなんといつでも俊足の人ですからね。でもそんな私でも活躍の場があります。

それは「綱引き」です。Y町時代には準優勝(M町が強かった!)そして今のW町では第3位という成績を経験しています。この競技一本の綱に競技者の力をうまく集めると楽に勝てますが、ちよつとでも互いの呼吸が乱れたりする

と空回りをし、簡単に負けてしまいます。奥が深く、共同の精神が大切な、参加者や応援方のどちらも共にとても熱くなる競技の一つではないかと思えます。「秋」とは、もとは「禾(作物)十束(たばねる)」という字で、作物を集め、束ね収めることでした

が、現在の字は「禾+火」で作物を火や太陽で乾かして収縮させることを示す意味も持っています。天文学では秋分から冬至まで、太陽暦では9月から11月まで、太陽暦では7月から9月までの3カ月



のことをいいます。「秋」の語源については、「秋空がアキラカ(清明)である」「収穫がア(飽)キ満ちる」「また「草木の葉がアカ(紅)くなる」という言葉の音から始まったとする説があるようです。今こそソハッピーマンデー法に

より、「体育の日」が10月の第2月曜日となりましたが、以前は10月10日だったことを覚えていますか? 昭和39年の東京オリンピックの開幕日が10月10日であり、統計的に晴れの日が極めて多い特異日ということにより制定されたそ

話は変わりますが、力士を「〇〇関」と呼ぶわけをご存じですか?

### 【おふくろの答え】

ポルトガル語の「capa」からきており、「合羽」は当て字です。16世紀ごろに来航したポルトガル人などの着ていた「袖がなくて裾が広いもの」からきました。明治以降は、防寒用がマントと呼ばれ、雨具用のものがカッパとか雨ガッパと呼ばれるようになりました。